



アボリジニの伝統楽器デジュリドゥ

オーストラリアのほぼ中央に位置し、同国の「へそ」と呼ばれ、シンボルとして世界中から観光客を迎えています。

付近に背の高い植物はなく、平坦な赤土の大地に横たわるウルルは、一枚岩では世界最大で、周囲9.4km、高さ348mもあります。地上に出ている岩盤は全体の3分の1で、残りは地下6千メートルに達しています。

沈む夕日に刻々と岩肌の色を変

えるウルルの様子は、神秘的で強く印象に残りました。

このウルルを、先住民アボリジニは聖地とてあがめ、麓には多くの壁画が残されていました。中でも、アナンダ人と呼ばれた人々は、言葉を持たずに長い間文化や伝統を継承し続けていました。

翌日、朝日に染まるウルルの早朝登山に臨みました。登山は往復約2時間の道のり。急な坂の連続で、途中チェーンを伝わりながらの登山でした。



マウントオルガにて



シドニーの文化の中枢 オペラハウス

6日間のオーストラリア視察を終え、雄大で美しい自然遺産に数多く触れ、その尊さを改めて強く実感しました。

オーストラリアは、全国的に環境への意識が強く、2000年のシドニーオリンピックでは、木を一本も切らずに会場を設営しています。また、現在でも3m以上に生長した樹木は、許可なく伐採できないなど、法的に自然保護の取り組みがなされています。

本町の自然資源の美しさと貴重さも同等のものであり、環境を守ることの必要性を、改めて強く実感しました。

ウルルの頂上は意外にも起伏が激しく、時折強風が吹く地形でした。断崖絶壁が連なり、地平線360度の眺望で、心地よく吹く風が、足の疲れをさらりと癒してくれました。

視察5日目、シドニーでオーストラリアのグランドキャニオンと例えられる、世界遺産ブルーマウンテンズ国立公園を視察しました。8月末のシドニーは、梅や桜が咲き、日本の4月上旬の気候でした。

展望台から渓谷を眺めた後、元は石炭の運搬に使用されていたというトロッコに乗車しました。レールは全長415m、最大傾斜が52度もありました。

その後、ゴンドラで高さ300メートル

ルの上空から、樹海や奇石スリーシスターズなどを見学しました。

移動途中、ハイウェイが交通事故で渋滞となり、30分もバスが止まってしまいましたが、その間現地で働くトラックの運転手と会話するなど、思いがけない地元の人々との交流もありました。

また、世界3大美港の一つに数えられるシドニーでは、シンボルとも言えるオペラハウスを視察しました。オペラハウスは、2千700人を収容できるオペラシアターをはじめ、大小6つの劇場や、図書館も付属しており、まさにシドニーの文化の中枢と呼べる施設でした。

度があり、オーストラリア国内の作付け面積は日本の国土ほどもあります。

また、克蘭ダという村では、アボリジニのブーメランや槍投げ、デジュリドゥと呼ばれる楽器演奏など、先住民の文化を学び、コアラ、カンガルーなどオーストラリアならではの動物にも触れました。

目的地の熱帯雨林は、クイーンズランド州州湿润熱帯地域と呼ばれ、世界遺産に登録されています。全長7.5kmの世界最長のロープウェイで、上空から視察しました。約160種類の植物からなるこの熱帯雨林は、人間の手が入っておらず、数え切れないほどの花や果実が、多くの鳥や動物の食物となり命を支えています。

2日目は、ケアンズから高速船でグリーン島に向かい、世界遺産に指定されている珊瑚礁群「グレートバリアリーフ」を視察しました。

グリーン島は、グレートバリアリーフの中でも珍しい、純珊瑚礁の島で、歩いても1時間程度で一周できる小さな島です。しかし周囲の海の自然は豊で、船の底にガラス窓がついたボートでは、様々な魚たちと、その住みかとなっている珊瑚礁を見る事ができました。

視察3日目、オーストラリア中部、マウントオルガの大小36の岩群と、ウルル・カタジユタ国立公園を視察しました。

ウルル(通称エアーズ・ロック)は、



世界遺産ウルル(エアーズ・ロック)にて

私たちは、オーストラリアの自然、環境、文化を視察しました。

オーストラリアは、約770万平方キロメートル(日本の約21倍)の面積を持つ世界最大の大陸国家です。アボリジニと呼ばれる先住民がいますが、英国植民地時代を経て、現在は移民国家として、独自の文化を形成しています。

初日、オーストラリア北部のケアンズで、熱帯雨林を視察しました。

途中、バスで経由した農村地帯では、サトウキビの収穫が行われていました。このサトウキビは、日本の角砂糖の3倍の糖

目的地の熱帯雨林は、クイーンズランド州州湿润熱帯地域と呼ばれ、世界遺産に登録されています。全長7.5kmの世界最長のロープウェイで、上空から視察しました。約160種類の植物からなるこの熱帯雨林は、人間の手が入っておらず、数え切れないほどの花や果実が、多くの鳥や動物の食物となり命を支えています。

2日目は、ケアンズから高速船でグリーン島に向かい、世界遺産に指定されている珊瑚礁群「グレートバリアリーフ」を視察しました。

グリーン島は、グレートバリアリーフの中でも珍しい、純珊瑚礁の島で、歩いても1時間程度で一周できる小さな島です。しかし周囲の海の自然は豊で、船の底にガラス窓がついたボートでは、様々な魚たちと、その住みかとなっている珊瑚礁を見る事ができました。

視察3日目、オーストラリア中部、マウントオルガの大小36の岩群と、ウルル・カタジユタ国立公園を視察しました。

ウルル(通称エアーズ・ロック)は、



美しい海と熱帯雨林が広がるケアンズ

オーストラリア 世界自然遺産に地球環境を学ぶ

日程 平成18年8月27日～9月3日
参加者 橋場清廣 / 高宮一明 / 遠藤勝昭 / 小谷地喜代治
柴田勇雄 / 鈴木満 / 近藤茂(議会事務局長)